

とちぎの生協

〒320-0024

栃木県宇都宮市栄町 1-15 栃木県開発センタービル 2 階

TEL: 028-624-6650 FAX: 028-624-6652

http://tochigikenren-coop.com Eメール info@tochigikenren-coop.com

ごあいさつ

会長理事 竹内 明子



2015 年も残りわずかとなりました。戦後 70 年の節目であり、平和について大いに考えさせられた年でした。憲法や原発、TPP に沖縄問題と重大な案件が畳み掛けるように提起されました。

また、自然災害も多く、豪雨による被害からは改めて水害の恐ろしさを実感させられました。生協連で避難所に炊き出しの訪問をさせて頂いた時に伺っただけでも、被災者の皆様のご苦勞は計り知れないものがありました。被災された方が一刻も早く日常の生活に戻れるように、避難所の在り方も考える必要があると考えさせられました。



平成 27 年 9 月関東・東北豪雨 被災者支援活動

□ 支援物資供給、被害家屋の片付け、避難所への炊き出しを行いました

9 月 9 日から 11 日にかけて東日本を襲った雨は、栃木県全域に対大雨特別警報が発令されるほどの豪雨となり、県内各地に大きな被害をもたらしました。栃木県生協連では、災害対応マニュアルに基づいて 9 月 10 日に「災害対策本部」を立ち上げ、物資の供給支援等に協力しました。その他、行政の行う支援ボランティアに協力し、のべ 82 名が泥出し作業等に参加しました。また、避難が長引く避難所へ、のべ 8 回・250 食分の炊き出しを行いました。引き続き、必要とされている地域へのボランティアを継続していきます。

被災された時の様子を伺ったところ、夜の 8 時くらいからあれよあれよと家の中が浸水してしまい、本当に怖かったと話してくださいました。

足がご不自由な年配男性。胸まで水に浸かり着替えも無く、3 日間そのまま。避難所に古着等が届いても女性用が多く、体格の良い男性用が足りないの、同じ服を洗って着ているとの事でした。

炊き出しボランティア

■ 栃木市…長寿園 (3 回)、中央小学校 (2 回)

■ 小山市…寒川小学校 (2 回)、第三小学校 (1 回)



◎10 月 2 日 (金) 避難所 4 か所 計 120 食用意
＜カレーライス、浅漬け、梨＞

◎10 月 8 日 (金) 避難所 3 か所 計 100 食用意
＜ご飯、豚汁、揚げ餃子、浅漬け、梨、みかん＞

◎10 月 20 日 (火) 避難所 1 か所 計 30 食用意
＜ご飯、おでん、ウインナー&キャベツの炒め物、浅漬け、梨＞

災害から 1 ヶ月が経過しており、お疲れもピークなのではと感じました。「お茶碗でご飯が食べられて嬉しい」「汁物がいただけて本当にありがたい」「野菜が食べられてさっぱりする」「果物は久しぶり」等の声をいただくことができました。

奥さまの介護が必要なご夫婦や、高齢の方もいらっしゃるの、避難所で暮らすのは大変なのでは…と感じました。



畳は水を吸ってもの凄く重い



床下の泥出しは大変な重労働

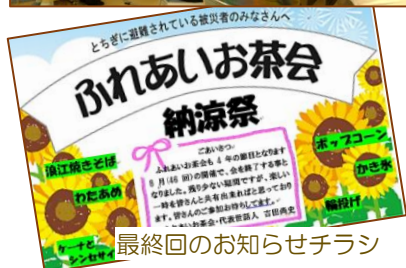


片づけボランティア

ごみ処理が追いつかず、今は使われていない小学校が仮置き場に

東日本大震災、福島原発事故被災者支援の取り組み

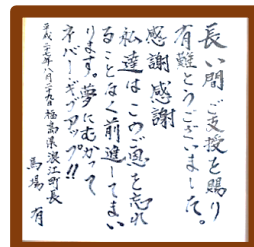
□ ふれあいお茶会最終回 8月29日



2011年9月より、月に1回継続してきた「栃木県に避難されてきた方々のための ふれあいお茶会」は、46回目となる今回で終了することになり、納涼祭を開催しました。

参加者は、帰還されたり、新しく居を構えたりと、それぞれの岐路に立っています。開催当初の目的である「参加者同士をつなげる」「情報交換の場」として、一定の役割は終えたとの判断から、ここで一区切りとすることにしました。

参加者からは「月に一度の楽しみだった」「また年に一回くらい集まって、近況報告をしたらどうか」などの声も聞かれ、それぞれに持参されたお菓子や、手作り品などを互いに渡し合っていました。当日は「浪江町長 馬場 有 氏」や町議の方も参加されて感謝の言葉を述べられ、後日手書きの色紙が届きました。



□ いわき市四倉仮設住宅お茶会 9月5日・10月17日

月に一度継続している福島県いわき市の四倉仮設住宅を訪問してのお茶会は、10月で40回目となりました。仮設住宅も4年目を向かえ半数以上が空き室となり、建物の傷みが目立ちます。お茶会を長く続けてきたことで、参加者とは言葉にしなくても互いに分かり合える関係ができてきました。毎回色々なお話を伺い、今さらながら、この原発事故がもたらした事実を考えさせられる場となっています。

自宅の除染は済んだものの、周りに店や病院もなくなり、見知らぬ作業員ばかりの町に戻るの怖い。

前は息子夫婦と3世代で暮らしていたが、原発事故で借り上げ住宅に住むことになった。狭かったのは私は四倉の仮設に。ずっと一緒に生活していれば気にならないが、4年も別々に暮らした今は、それぞれの暮らしができ、再び一緒になるのはとてもエネルギーのいること。孫も大きくなり、学校も簡単に変われない。もう一緒には住めない。だから、一生1人のままだと思う。老後を考えなければ...

機関運営

□ 8月11日、10月20日に定例理事会を、9月8日に常務理事会を開催しました

□ 10月30日、2015年度第2回理事長専務会議を開催しました

「前川総合研究所、主任研究員(元前川製作所専務) 岩崎 嘉夫 氏」を講師にお迎えし「前川のモノづくり、人づくり」をテーマに講演会を行いました。前川製作所(事業高1100億円)では、開業以来「共創と場」を中心に経営を続けてこられました。「共創」は1人ではなく何人かで物を作り上げることで深まり、「場」は、情報が共有でき人とつながる、それを大切にしているということです。講演の後、岩崎氏を交えて交流をし、認識を深めあいました。

その他

□ 栃木県県民生活部くらし安全安心課と意見交換会を実施しました 8月7日

生協連から16名が、くらし安全安心課からは課長をはじめ4名が参加され、生協への期待を述べられました。生協連からは2014年度活動報告、2015年度の計画と、参加した8生協がそれぞれ活動報告を行いました。今後も互いの理解を深めながら、協働の取り組みをすすめていきます。

□ 平成27年度 栃木県・小山市総合防災訓練 8月30日

栃木県、小山市と災害時協定を締結しています。小雨の中、よつ葉生協・とちぎコープのトラック8台で応援物資供給訓練等に参加しました。保健医療生協は約100名の血圧測定を行いました。

□ 第12回とちぎ協働まつり 2015! “わくわく”～小さなわくわく、みんなとつながる!～ 10月25日

子育てエリアで、昔遊びやクラフト体験が協力しました。

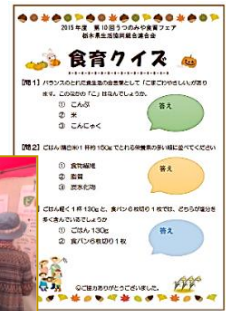


□ 栃木県孤立死防止見守り事業連絡会議 10月29日

見守りネットに協力している県内生協と事業者、各市町の代表者が集まり、取り組みを進めて来た中での緊急事例の報告・発表を行い、今後に活かせるよう交流しました。

・くらし部会では、地域3生協で食育や環境など暮らしに関わる様々な活動とともにを行っています・

- 第10回うつのみや食育フェア宮っこ食べっこ元気っ子～楽しく知ろう食のチカラ～もっとおいしくもっと健康に！に出展しました 10月4日宇都宮城址公園
- パネル展示と食育クイズの出題、「天然だしパック」の配布等を行いました。快晴で人出も多く、300名分用意した食育クイズ、だしパックともに昼過ぎには終了し、その後は終日パネル展示を行いました。



クイズの正解をパネルで説明中

各生協展示パネルのテーマ

- ◎よつ葉生協・・・習慣にしたい合言葉「こまごわやさしい」
- ◎生活クラブ生協・・・ごはんを食べよう！
- ◎とちぎコープ生協・・・手作りだしで減塩しませんか



とちぎ食の安全ネットワーク

- 新たな食品表示制度と機能性表示の食品について 9月17日



講師:日生協品質保証部、安全政策推進部の鬼武 一夫 氏

今年度第3回全体会として、学習会を行いました。新たに加わった機能性食品の概念や表示について、その問題点を分かりやすくお話しいただき、理解を深めることができました。

- 栃木県と共催し、第14回とちぎ食品安全フォーラム「知ろう、防ごう、食中毒」～正しく知って食中毒を防ごう！～を開催しました 10月22日

- ・基調講演…正しい知識で食中毒対策を！ 講師：厚生労働省 森吉 美樹 氏
- ・食中毒予防の取り組み報告 栃木県保健福祉部生活衛生課の副主幹 見目 晃彦 氏
- 株式会社日本栄養給食協会 課長 入江 成子 氏

- ・上記3名と、消費者によるパネルディスカッション

よつ葉生活協同組合の薮蒔理事が消費者代表パネリストとして登壇し、日頃の経験を通した、家庭での注意点等の発言をされました。



とちぎ消費者ネットワーク

- 消費者問題について、学習会を開催しました。

9月15日	最近、相談を受けた消費者問題事例 弁護士:服部 有 氏	最近、相談を受けた消費者問題事例 弁護士 服部 有 氏	10月13日	奨学金も消費者問題!! ～みんなで 奨学金問題を考えよう～ 弁護士:小倉 崇徳 氏	奨学金も消費者問題!! ～みんなで奨学金問題を考えよう～ とちぎ総合法律事務所 弁護士 小倉 崇徳 氏
-------	--------------------------------	--------------------------------	--------	--	--

- 栃木県の委託を受け、とちぎ消費者カレッジ(学生対象消費者問題学習会)を開催しています

9月11日	自治医科大学	消費者被害の実証から学ぶ 講師・弁護士 山口 益弘 氏
10月12日	作新学院大学	ストップ・ザ・悪徳商法!～いま、みなさんが狙われています～ 講師: 弁護士 小倉 崇徳 氏
10月27日	宇都宮大学 女子短期大学部	奨学金も消費者問題!!～返還トラブル予防講座～ 講師: 弁護士 小倉 崇徳 氏





学習会を開催しました

□ いま 憲法を考える ～わが国を「戦争する国」にしないために～ 9月1日

講師: 日弁連 憲法問題対策本部 副本部長 弁護士 伊藤 真 氏
参加者約 80 名

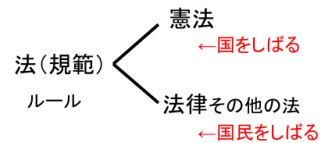
参加者アンケート

とても分かりやすかった。歯切れの良いお話しに引き込まれました。集団的自衛権や憲法がよく理解できた。

日本国憲法は世界に誇れる一歩先に世界を考えた法だということを再確認しました。主体的に生きること、不断の努力で平和を作ること、大事なことを考えた時間でした。

憲法を理解する上で重要なこと<他者への共感><相手の立場に立つこと>が大切で、沖縄のことなどに対する想像力を得るためには、やはり学んだり、行動することが大切だと思いました。

憲法は法だが法律ではない



憲法とは

・憲法とは、国家権力を制限して国民の権利・自由を守る法(人権)

あくまでも人権保障が目的(近代国家共通)

日本国憲法はさらに戦争放棄も目的とした点に特長がある。

〈伊藤真弁護士のレジュメより〉

憲法や立憲主義についての伊藤先生の学習会は昨年に続き 2 回目となりますが、「2 回聞いた事で、より理解が深まり、新たに気づいたこともある」という声もいただきました。

□ 沖縄問題 その歴史と現状について 10月8日

講師: 沖縄県民と自治研究会世話人 湧田 廣 氏
参加者約 60 名

沖縄の方々の苦しみ、哀しみ、怒り、テレビなどでは知ることのできない、人の声を持つ重さと現実に直接触れ、参加者からは「貴重な時間だった」「同じ日本の中で起きている、日本人全員の問題として捉えていかなければならない」「沖縄につけを回し続けている我が身を振り返り、何か行動を起こす責任がある」「今後もこの問題を注視していくことが必要」等のアンケートがありました。



□ 原発再稼働 —なぜ 変れないのか— 11月17日

講師: 脱原発をめざす首長会議世話人 村上 達也 氏(元東海村村長)
参加者約 70 名

原発問題を中心に、憲法や地方自治など、背景にあるこの国の課題をも多角的にお話しいただき、経済優先にのみ価値を置くのではなく、持続可能な世の中を創っていく上で、協同組合が果たす役割は大きいというお話しもいただきました。



分かりやすく、とても考えさせられる内容でした。原発問題は、日本国の問題であり私たち1人1人の問題だと感じました。そして、私は知らない事ばかりだと痛感しました

参加者アンケート

今の日本の姿は私たちが望んでいる姿なのか、よく考えるためにも、こうした学習会に参加し、自分の中で理念や理想を構築していく必要があると思っています。村上先生が講演の中で何度かおっしゃっていましたが、生協が果たす役割が大きいのだということを改めて感じています。

私の出身地は原発があります。実家は10km 圏内です。もし、何かが起こったらと思うと恐ろしいし、この思いを日本の全ての人に考えて欲しいです。「原発があるのは過疎地域だし、経済成長のためにはリスク、危険はしょうがない」という考えが政府、そして世論の一部にあるような気がします。そのような考えがなくなってほしいと思います。